

# 報道資料

平成22年2月3日  
奈良県健康安全局  
松山 氏 平  
3223 3224

抗インフルエンザ薬オセルタミビル（商品名：タミフル）に耐性を示す  
遺伝子変異が検出された新型インフルエンザウイルス（A/H1N1）の  
確認について

本県では新型インフルエンザが確認された患者の方のうち、重症化のため入院された  
方の中から、抗インフルエンザ薬オセルタミビル「タミフル」に対する耐性を示す遺  
伝子があるかどうかの検査（いわゆる耐性検査）を実施しています。

今回、本県で初めてこの耐性を示す遺伝子が検出されましたのでお知らせします。

なお、報道に際しましては、患者及び家族のプライバシーに十分配慮して頂くようお願い  
いたします。

## 1 患者の概要

患者は生駒郡在住の5歳の男子

基礎疾患 なし

感染源 不明。

（経緯）

- 1 1月26日（木） 発熱 上気道炎 下気道炎  
近隣診療所受診 迅速検査の結果A型陽性 タミフル投与
- 1 1月29日（日） 解熱
- 1 2月 1日（火） 咳が続くため、再度、近隣診療所受診  
呼吸状況が悪化したため、奈良市内の病院に入院  
入院時39.2度 軽度の肺炎 リレンザ投与  
PCR検査のため、検体を採取し、奈良県保健環境研究  
センターで検査。新型インフルエンザ陽性を確認
- 1 2月 7日（月） 回復、退院

## 2 検査の概要

- 1 月18日（月） 奈良県保健環境研究センターにおいて、遺伝子解析を実施  
した結果、タミフル耐性を示す遺伝子を検出した。  
奈良県保健環境研究センターでは、昨年8月から現在まで  
に69検体でタミフル耐性検査を実施。今回、初めてタミフ  
ル耐性を示す遺伝子を検出。  
全国では、46例目。
- 2 月 2日（火） 感受性試験（インフルエンザウイルスに対して抗インフル  
エンザウイルス薬が効果があるかどうかの試験）を国立感染  
症研究所において実施するため、ウイルス培養を実施してき  
たが、現在までに培養できず、感受性試験は実施できなかつ  
た。

3 患者の家族に発症者はいない。また、患者の周囲の人で入院等重症化した患者も確  
認されてなく、耐性ウイルスによる感染拡大はみられないと考えている。

4 厚生労働省によると、タミフルに対する耐性を持つ遺伝子変異は、ウイルスの重篤  
度（病原性）には直接影響を及ぼすものではないとされている。